



若年性認知症をご存じですか？

「認知症」というと高齢者の病気と思われがちですが、若い年齢でもかかる
ことがあり、64歳以下で発症した認知症を「若年性認知症」と言います。

まだまだ働き盛りの年齢で「認知症」と言われたらどうでしょう？

全国で、若年性認知症の人は4万人近くいると言われていています。

原因

若年性認知症に限らず、「認知症」は病名ではなく、特有の症状を示す状態を
総称する言葉です。認知症の原因となる病気はさまざまですが、
多くの場合は脳の病気であり進行性です。



高齢者の認知症との違い

1. 発症年齢が若い
2. 初発症状が認知症特有でなく、診断が難しい
3. 様子がおかしいと気付いても、すぐに受診しない
4. 男性に多い
5. 経済的な問題が発生するケースが多い
6. 主介護者が配偶者に集中する
7. 両親の介護と重複することがある
8. 家庭内での課題が多い（就労・子供の養育・結婚など）

親の介護

子供への影響

大丈夫？

経済問題

仕事



若年性認知症を疑ったら

～早期診断と早期治療の機会を逃さないために～

初期の症状はもの忘れだけでなく、意欲低下や不安の増大、周囲への無関心など現れ方は様々です。仕事の失敗や話を合せる取り繕いの様子などから周囲の人が変化に気づくケースも多いようです。

年齢の若さから認知症とは考えにくく、受診してもうつ病と診断されることもあり、発見が遅れがちです。

いつもと様子が違うと感じたら早めに専門医を受診しましょう。



もの忘れ外来、神経内科、
精神科などを受診しましょう

診断の後は？

治療や介護の事だけでなく就労や経済的な問題、子供への影響など、これからの生活に関する様々な不安が出て来ると思います。そんな不安を相談できる場所を見つけることは大切な事です。病院のソーシャルワーカーや若年性認知症支援コーディネーター、地域包括支援センターなどの専門職が状況に応じて、その人にあった支援を一緒に考えていきます。

おわりに・・・

誰もが認知症になる可能性があり、介護する家族になるかもしれません。

認知症と診断された人も家族も不安でいっぱいです。

今、私たちにできることは何でしょうか？

それは、一人ひとりがこの病気の存在を知り、理解を深めることです。

～当院では～



当院の認知症疾患医療センターでは、若年性認知症支援コーディネーターを配置し、若年性認知症の相談にも対応しています。

一人で抱え込まずに、気になる事があればお気軽にご相談ください。

